令和５年度第１回高知県社会福祉審議会地域福祉専門分科会　議事録

１　開催日：令和５年７月 11 日（火）15：00～16：30
２　場　所：高知城歴史博物館１階　ホール
３　出席者：委員 12 名中 10 名出席（出席者別添参照）
４　内　容：
（１）　開会挨拶（高知県子ども・福祉政策部長）
（２）　議事
①専門分科会の会長、副会長の選任について
⇒委員の互選により、
会長は井上委員（高知県社会福祉協議会 常務理事）、
副会長は長澤委員（高知県立大学社会福祉学部 学部長）に決定した。
②高知県地域福祉支援計画の基本事項と進捗状況について
⇒地域福祉政策課 課長より内容を説明を行った。
③第４期高知県地域福祉支援計画骨子（案）について
⇒子ども・福祉政策部 部長より内容を説明を行った。
④高知県地域福祉活動支援計画について
⇒井上会長（高知県社会福祉協議会 常務理事）より高知県地域福祉活動支援計画の改定について説明を行った。

【主な意見・質疑応答】
（１）議事②高知県地域福祉支援計画の基本事項と進捗状況について
●資料２について、２月の社会福祉審議会の際には 12 月末時点での整理になっていたが、そこから減っている数値がある。例えば通し番号２の「あったかふれあいセンターでの介護予防に取り組む拠点」は 12 月末で 56 箇所という説明があったが７箇所減っている。また、４の「あったかふれあいセンター等での介護予防に資する住民主体の集いの場の実利用者数」も、１万人を超えていたが今回 5,803 人になっている。カウント方法に延べ人数から実人数への変更などがあったのかと思うがどうか。
（事務局）
例えば、４番の「あったかふれあいセンター等での介護予防に資する住民主体の集いの場の実利用者数」が減少しているという点については、場所によるが、あったかふれあいセンターに立ち寄った方をカウントしてしまったりだとか、12 月時点では精査がなかなか進んでないところがあった。他の項目でもそういうことがあろうかと思われる。現状値としてふさわしいものは今お示しした数値ということでご理解いただきたい。

●通し番号 65 は今回「農業分野で就労する障害者等の人数」になっているが、前回は「農福連

携の新規従事者数」となっていた。これは単にピックアップする数値を置き換えたということでよろしいか。
（事務局）
　おっしゃる通りで、新規ではなく全体の数を抑えたほうがいいだろうということで置き換えている。

●ＫＰＩはソフト事業ばかりだが、ハード整備は含んでいないということか。
（事務局）
　地域福祉支援計画のＫＰＩの中ではハード整備の目標というものは立てられていない。次期に向けて内容を検討させていただきたい。

●通し番号 54 の「移動手段の確保の為の取り組みの推進」はＳマークになってるが、これは何かしら取り組んでいる市町村はあるが、住民ニーズが満たされているかどうかとかいうのはまた別の話という理解で良いか。
（事務局）
　おっしゃる通りで、取り組んでいるイコール住民ニーズがすべて充足されているということではない。

●通し番号 38 の「医療的ケア児等コーディネーター人数」について、地域偏在だとか各地域における障害者に対応できる人材についてなど、課題はあるか。
（事務局）
　中山間地地域の医療的ケア児コーディネーターについては、地域の保健師や看護師、相談支援事業所の相談支援専門員の方に受講していただいているが、やはり地域偏在があり、中山間地域での確保が課題。養成に当たっては、中山間地地域の保健師にも受講していただくことを進め、地域偏在がないような形で養成を進めていきたいと考えている。

（２）議事③第４期高知県地域福祉支援計画骨子（案）について
●第３期に比べてかなり具体的に書かれている。ご存じのように介護人材の不足は全国的にも言われており、特に高知県は日本一中山間地域が多く、ホームヘルパーの手が届かない地域もある。そういった中で「たて糸」と考えると医療と介護の連携のためデジタル化の推進は必須。
　また、「よこ糸」では、昨年度からキャリア教育推進事業費補助金を活用して県下の高校１０校程度で訪問介護の重要性等について講義をさせていただいている。単純にホームヘルパーの役割のみを話すのではなく、高知県の人口自然減や高齢化の中での高知県の未来像や介護現場の話をすると知識が深まったという声をいただく。高校生にホームヘルパーの仕事を知っていただいたことで、高齢者のお宅に行った際に、顔見知りになった近所の高校生から声をかけていただいた事例がある。高校生とのつながりが少しずつできているかなと思う。

現在人材が不足しているのは、5年前10年前に私たちがそういう種まきをしてなかったということも一つの要因。今現在は大変だが、ここから5年後10年後を考えて魅力や重要性を草の根活動的に広報している。講義の前後でアンケートを取っているが、給与が低いイメージは当然あるものの、高校生が思っているよりは処遇改善が行われていて、ある程度給料も上がってきたということを話すとだいたい驚かれる。現状をお話しすることで就職を考えてくれる学生の方もいるので、我々としては「たて」の面では他職や医療とのデータ連携などデジタル化の推進、「よこ」のつながりでは次世代を担う人若い人たちと私たち現職のつながりづくりをメインでやっていきたい。

●「高知型地域共生社会」について、分野を超えた断らない相談窓口というのが画期的な表現だと感じた。「たて糸」は従来からあるので、今後はどのようにしてもっと連携を取っていくかが課題だと思う。「よこ糸」については、高知県では住民が住む面積がどんどん減ってきているのが現実で、この住民同士のつながりをいかに強化していくのかが課題だと思う。我々は社会福祉法人などを経営している団体の集まりなので、専門職員がたくさんいる。それぞれの専門分野で、いろんな資格をとっているのにその資格が生かされないまま働いてらっしゃる方がたくさんいる。そういった方々をこの「よこ糸」の地域に出していける環境をつくっていかないと難しいのではないか。

また、社会福祉法人は、法人施設を開放するといったことについてはものすごく慎重。その理由のひとつには、地域によって違いがあるとは思うが、あったかふれあいセンターがどんなことをしているかが掴めていないことがある。もっと職員にも中身を知ってもらい、もう一歩踏み出して、地域に対して社会福祉法人の職員が積極的に参加していけるような環境づくりを法人の方でアピールし、それに対する支援などをお願いできればいいかなと思う。

●これからの社会を担う子供たちをお預かりするのは責任が重大。また最近は児童虐待や不適切保育とか色々なことも取り上げられており、保育士はいろんな事を考えながら保育に取り組んでいる。

以前は子どもだけを保育するという感じだったが、今は親支援という言葉もある。いろんな家庭環境があり親御さん自身にも支援が必要な方が増えている。保育園だけではなかなか解決できないことがたくさん出てきて、児童相談所や保健師などと連携を取り定期的に話し合いながら園を運営している。

骨子案にも「発達障害のある人の支援」という項目があるが、発達が緩やかな子ども、集団生活に入るのが難しい子どもなどが増えているが、人材不足の保育園が多いと思う。人材不足は保育にしわ寄せがいく。財政面も色々あるかと思うが、保育士をもう少し増やしていただきたい。また、免許は取っていても実際には働いていない保育士が増えているので、何とかして復職していただけないかというようなことを考えている。それと、保育園によって状況は異なるが、少子化で定員を減らした保育園もあり、園の運営についても課題となっているので、横

のつながりとして、保育園同士の情報交換の場もこれからは大切だという話も出ている。
　保育士自身も心身ともに元気でないと支援ができないので、保育士のメンタルサポートや、保育士が守られる環境づくりも大事だと最近痛感している。

●地域の第一線でボランティア活動をしているが、老人クラブは人材不足であり、世話役が全くいない。クラブを解散していって、会員がここ４年で5,000人ぐらい減っている。働きかけてはいるものの、世話役をしてくださる方がいない。活動はボランティアであり、あくまでも無償のため自分の持ち出しがたくさん必要。
　また、地域にずっといるが老人クラブに入っていない方が認知症にかかっても誰も気がつかない。友達が気づいてあったかふれあいセンターに紹介したり市の方へつなぐが、現実的には簡単ではない。これから先、老人クラブの地域での活動は、皆さんに理解してもらうしか方法はないが、非常に厳しい状況。皆さんからご協力いただければ非常にありがたいと思っている。

●ＬＧＢＴＱについて出てこないが、骨子案１の（13)「権利擁護の取り組みの推進」というところに入るのかな、人権にからむのはここかなと解釈した。
　グループや若い世代の地域福祉への参画について、学生時代には学校で福祉に取り組んだり学習するが、就職後はボランティアに参加するのはなかなか難しい。休みの日は家族と一緒に出かけたりするので、若い人はなかなか活動してくれない。子どもが小学校に入るとＰＴＡ活動には参加してくれるが、地元の福祉活動は難しいと思う。国とか大きい話になると思うが、民生委員も同じで、ボランティア休暇やボランティア活動に使っていい有休制度などができないかなと願っている。こういう声は全国的にあると思うので、そういった部分も地域福祉支援計画などに入ったらいいと思った。

●所属団体についていうと高知市は本来活動のメインになっていただくべきところだが、分担金が高額になることから脱会している。また、今回のコロナウイルス感染症によって各市町村の組織が弱まった。活動の自粛や中止、規模縮小が起こり、その間にも皆さん年を取っているので、事業に参加できないところが増えている。今年度についても、高幡地区の１つの町で役員の後継者がおらず、続けられなくなった。しかしながら、町の健康福祉課と話し、分担金はいただけることになっている。また、３年前に脱会した高岡郡の１つの町からは連合会に入ってもメリットがないと言われ、非常に困っている。今後はなお一層のご指導をいただきながら、組織強化に努めたい。
　「高知型地域共生社会」の推進について、三原村のあったかふれあいセンターの場合、職員が急遽１名退職し、現在１名で運営している。村の保健師の協力を得ながら進めているが、村内放送で募集してもなかなか手が挙がらない。ハローワークにも出しているがここにも全然応募がないという状況で、非常に困っている。参加者についても、子どもたちからお年寄りまで集めているものの、特に男性の参加者が少なく、参加者も限定されている。男性を引っ張って

くればもっと活気が出ると思うので、社協と話し合いながら、人集めをしていきたい。
　もう１点、私の知り合いのところで起こった問題だが、母親が脳梗塞で倒れ、そこの嫁が仕事を辞めて母親の面倒をみないといけない状況に直面している。早く認定していただければ施設にも入所できるが、認定がいつになるか分からないため、仕事を辞めて面倒をみるという状況が発生している。できるだけ早期に認定していただくように努めていただきたい。

●「たて糸」「よこ糸」の考え方はすごく重要だと思う。必要だと感じていたことがやっと形になったと感じた。高知県は東西に広く中山間が多く、限界集落と言われるような地域がある中で、いかに「よこ糸」をつないでいくのかということを考えた時に、人がおらず、やっても集まらないという課題がある。そんな中でいろんな資源を活用することがすごく大事だと思う。例えば病気がある高齢者について、診療所や移動販売の方たちが異変に気づくなど、人や資源を活用しながら地域の中での生活を支えていかないと行政だけ、地域住民だけでは難しいだろうと感じている。高知県は離婚率も非常に高く母子家庭、父子家庭が多い。県民所得も全国で下の方。共稼ぎが多いということで、厳しい環境の子供たちの支援や、引きこもり、自殺予防だとか、色んな高知県の特徴が出たところがこの施策の中に反映されているので、高知県の特徴を踏まえてこの地域福祉支援計画を進めていただきたい。

●所属団体の活動としては、骨子案の２「高知型地域共生社会の実現に向けた地域づくり」の９「若い世代の地域福祉活動への参画の促進」が特に関係してくる。２月の社会福祉審議会でもお話をしたと思うが、２つ感じたことがある。
　１つは、自分たち若い世代が高校生たちと地域とのつなぎ役になれないか今後も考えていきたいということ。社会福祉協議会の夏ボラを活用させてもらったが、高校生がそのまま地域に入るのではなく、ちょっと先輩のお兄さんお姉さんがいる方が高校生達も安心して地域の中でいきいき活動ができるという事例を各市町村の青年団の中で積み重ねており、このつなぎ役というところを各市町村の青年団と連携して取り組んでいけないかと考えている。横のつながりを各市町村でつくる際に若い世代代表として、地元のあったかふれあいセンターや社会福祉協議会、福祉施設などの会議にも入ることができれば良いのではないかと感じた。
　もう１つ、小さい頃から地域の中で活動していると将来リーダーになる人材が生まれるきっかけになるのではないかということを現場で感じている。関東の方では若者会議というのがたくさん生まれているそう。学校教育の中に地域とつながる地域福祉や社会教育を盛り込んでいただけたら、現場の動きもより活発になっていけると感じた。
　最後に、所属団体メンバーも「高知家地域共生社会推進メンバー」になることができそう。欲を言うと、メンバーになった後に、他のメンバーとの集まりが市町村単位などであれば良い。メンバーになった後、実践があるとさらにやる気も生まれるなというふうに思った。

●他の委員が言われていたように、「たて糸」と「よこ糸」に分けて記述することに、高知県の

計画の特徴が出ていると思う。一般的には行政計画である「たて糸」の部分がメインだと思うが、今あるネットワークだけでなく、これからどうやってネットワークを構築し、それによって成果を生み出していくかという「よこ糸」の取り組みが今後問われていくと考える。

以下、３点ほど意見を申したい。

１点目に、県のキャリア教育推進事業として次世代の育成に繋げる取り組みについて、すぐには人材確保に繋がらないかもしれないが、長期的な人材確保の視点での福祉教育について、例えば３「福祉介護人材の確保対策の推進」に盛り込んではどうかと思う。

２点目に、「ソーシャルワークの網の目研修」について、ソーシャルワークという言葉を地域住民すべてが知っているわけではない状況であるが、言葉の意味やその姿勢が地域の方に伝わるきっかけにもなると思うため、大変ありがたい取り組みだと思う。ボランティア、そして専門職がそれぞれに向けた研修を受講することで、仕事の内容やご自身の業務に生かせる知恵を伝えるというのは第一歩として非常に良いと思うが、私達がソーシャルワーク教育の中で非常に重視しているのはグループワークなどを通じた振り返りである。この研修を受けた人が同じような研修を受けた人と次に語る場をつくって、実際に自分の関わった事例について共有したり、そこで新たな気づきや学びを得たりというような、二段階目の学習の機会を設けていただければよいのではないか。専門職や支援者の支援が、次の段階でできれば、福祉に関わる人材の定着や質の向上につながるのではないかと思う。

３点目はジェンダーの観点から、全国でＬＧＢＴＱについてすでに言及している市町村の地域福祉計画は少ないものの、いくつかあると聞いている。また四国でみると、同性パートナーシップ制度を、高知県では５つの市町が、隣の徳島県は県レベルで、香川県はすべての市町村が導入している。高知県としても、やはりＬＧＢＴＱの人権や尊厳の保障について盛り込んでいただきたいと思う。さらに、令和６年４月から困難女性支援法が施行される。まだ計画策定段階のため地域福祉支援計画に盛り込むことは難しいと思うが、支援の対象者として視野に入れ、困難女性支援の計画で定めることとの連携についてこの計画の中に入れていただけたらと思う。

（事務局）

本日いただいたご意見を本計画だけでなく地域福祉の方にも活かしていきたい。５年後、10年後の姿を明確にしたうえで、委員の皆さまのご意見をもとに議論を進めさせていただきたい。

支え合いの仕組みづくりについては新しい形の支え合いの形をつくっていく必要があると思っている。委員からもお話があったが、活動が継続することが大事な部分のため、無償が全てなのかということもあるかと思っている。介護事業でも地域の方々のお力を借りていくといった制度の方向性も新たに出てきている。「よこ糸」の高知ならではの仕組みづくりやそれが継続できるような形については新しい発想も取り入れたいので、ぜひご意見をいただきたい。

若い方々の人づくりについて、次世代のリーダーづくりに関する取り組みは県社協も力を入れている。地域福祉支援計画と地域福祉活動支援計画は両輪の計画と考えているので、しっか

り行っていきたい。

最後に、一番始めにデジタルの話があったが、例えば行政手続きでももう少し省力化できる部分があるのではないかと昨日もご意見をいただいた。こういったご意見は大事な視点のためどんどんご意見をいだたき、取り組みにつなげていきたい。